

平成 25 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対 談 (鈴鹿市) 会議録

1. 開催日時：平成 25 年 10 月 3 日 (木) 14 時 00 分～15 時 00 分
2. 開催場所：若松地区市民センター 1 階 多目的ホール
3. 対談市長名：鈴鹿市 (鈴鹿市長 末松 則子)
4. 対談項目：
 - (1) 「高齢者、障がい者等の移動の円滑化の推進等について」
5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

この 1 対 1 対 談というのは、主に来年度の予算に向けて、その前に、市長さんや町長さんのお話を聞いて、それを反映していこう、市長さんや町長さんが、自分の市や町の中でどういうことに優先順位を高く思っておられるのかお伺いをして、来年度の予算に反映をしていこうという目的でやらせていただいて、今年で 3 年目となります。

今日は後ほどいろいろお話をさせていただくということですが、近鉄伊勢若松駅のバリアフリー化につきましては、私自身も白子に住んでいるときは、神戸や平田から、電車に乗って近鉄伊勢若松駅で乗り換えて白子に帰るということをやっておったところで、大変よく分かる話題でありますし、また、この地域で私がいろいろお世話になった皆様方が悲願として思っておられたことでもあったと承知をしておりますので、末松市長と有意義な議論をさせていただければと思っております。

併せまして、昨日、伊勢神宮の内宮では「遷御の儀」が行われました。私も秋篠宮殿下、安倍総理の後ろで麻生副総理以下、閣僚の皆さん、あるいは旧宮家の皆さんと一緒にその場に立ち合わせていただきましたが、「御出御」といって、御神体が出ていくとき、それを見送りまして、御神体に続いて私どもが総理の後をついて、次の新しい御正殿に移っていくのですが、新しい御正殿に移ったときに、鳥肌が立つとよく言いますが、鳥肌って嫌なときに立つのが鳥肌なのですが、そうではなくて、快適な清々しい鳥肌というか、ざわざわとするような感じを非常に受けまして、本当に 1,300 年にわたって遷宮というのが、日本人にとって、あるいは三重県、伊勢の国にとって大切にされてきたことを改めて感じた大変貴重な経験をさせていただきました。

そのお陰をもちまして、伊勢神宮もこの 9 月末現在で 951 万人の参拝者の方に来ていただいています。これは過去、明治 28 年から統計を取り始めてい

ますが、今まで年間で一番多かったのが 882 万人ですので、それを既に上回っている状況であります。そういう形でいろんな観光PRなどもやっている中で、こういうたくさんの中からは来ていただいていることをありがたいと思っております。

鈴鹿市さんも最近、「さあ、きつともつと鈴鹿。海あり、山あり、匠の技あり」というキャッチフレーズで鈴鹿市のPRを進めていただいていると聞いております。私、これすごくいいキャッチフレーズと思いますが、こういう三重県が世界中から注目をされているときでありますので、鈴鹿市長と共にしっかりPRもしていきたいと思っております。

鈴鹿市長

本日は、鈴木知事、大変お忙しい中を、このように鈴鹿市にお越しをいただきまして、また、貴重なお時間をいただきまして本当にありがとうございます。

また、地元の皆様、市民の皆様、今日は、たくさんの方々がお越しをいただきまして、本当にありがとうございます。

この後、この地域の問題も含めまして、近鉄伊勢若松駅のバリアフリー化は、鈴鹿市にとって大変重要な問題であるととらえておりますので、その後、公共交通のことも含めて有意義な時間としたいと思っております。

今日は知事に要望をさせていただく場でございますので、頑張って要望してまいりたいと思っております。

また、三重県では先日、三重テラスを東京でオープンし、いろいろ観光セールス、あるいはアンテナショップを含めたセールスをしていただいております。「実はそれ、ぜんぶ三重なんです！」というものの中にも、今度、鈴鹿市で日本グランプリ開催が決まっているF1のシンボルとして、チェッカーフラッグも入れてもらっております。

併せまして、先ほど知事からご紹介いただきました「さあ、きつともつと鈴鹿。海あり、山あり、匠の技あり」というシティーセールスも含めて、観光も一緒に頑張っておきたいと思っておりますので、この後、是非ともよろしくお願いを申し上げまして、冒頭の御挨拶に代えさせていただきます。

(2) 対 談

1 「高齢者、障がい者等の移動の円滑化の推進等について」

①近鉄伊勢若松駅バリアフリー化整備促進について

鈴鹿市長

パワーポイントを使って少し御説明をさせていただきます。先ほど知事と一緒に近鉄伊勢若松駅の視察をさせていただきました。近畿日本鉄道の桑原部長より近鉄伊勢若松駅の現況、及びバリアフリー化事業の概要を御説明いただきましたように、この駅は名古屋線と鈴鹿線との結節駅として、本市の中では大変重要な役割を果たしております。鈴鹿線沿線には鈴鹿市の商工業の中心的な地域や、国、県、市の庁舎、さらには、3つの県立高校や私立高校があることから、通勤、通学、買い物の方々に利用をいただき、平成23年度では約211万2,000人の方が乗車をされております。今日の御説明でございましたが、一日1万人以上の方がこの駅を使っていると近畿日本鉄道から御説明をいただきました。

さらに、本市が運行いたします西部地域、南部地域のコミュニティバスも、鈴鹿線の平田町駅、鈴鹿市駅で結節をしております、本市の生活交通ネットワークの一部を担っている状況です。

伊勢若松駅はこのように重要な役割を持つ交通施設ですが、先ほどご覧いただきましたように、駅の利用にあたっては、このように階段を利用していたかなければなりません。高齢者の方、あるいは障がいのある方、また、ベビーカーを利用される方など、いわゆる移動制約者の方には大変不便であるということで、駅利用の際の大きな障がいとなっております。

実際に鈴鹿線沿線にお住まいの障がいをお持ちの方より、最寄りの駅を利用したいが、近鉄伊勢若松駅は階段であるのでそれが利用できない、やむを得ずエレベーターのある白子駅を利用しているという声も大変多く聞いております。

また、ご当地若松地区自治会の皆様方をはじめ、鈴鹿線沿線の自治会の皆様や障がい者団体の皆様、特にそれぞれの鈴鹿市の中での老人クラブ連合会様からも御要望をいただいております。是非とも駅改修のための事業をお願いしたいと、これは何年も前から、しっかりと御要望をいただいております。

今回、近鉄伊勢若松駅に対する事業の概要ですが、上下線のプラットフォームと駅舎にエレベーターを設置いたしまして、それらをつなぐ跨線橋の新設と駅舎のトイレの改修が主なものです。この駅のスムーズな乗り継ぎの実現は、鈴鹿線全線に及びますので、その効果は大変大きなものであると考えております。本事業費として約6億円必要であり、事業実施には国からの補助金の交付を受けることが必要不可欠となっておりますが、三重県様におかれども、本市と共に国に対しての御要望をいただき、併せて、それぞれの自治体負担分としての事業費の6分の1を是非とも御負担をお願いしたいところです。

鈴木知事は、6月21日に伊勢市で開催されました「バリアフリー観光全国フォーラム伊勢大会」で、「ホスピタリティーに満ちた観光を磨き上げるため、県民、観光事業者、行政が協創して推進する。」と力強い心強い宣言をなされております。

また、知事はイクメン知事ということで大変有名であります。全国の10県の知事で組織をいたします「子育て同盟」にも参加をされ、子育て支援策に積極的に取り組んでいかれると聞いております。このようなことから、ベビーカーの利用の際に大変不便となっておりますこの駅の現状について、是非とも御協力、御尽力をいただきたいと思っております。

パワーポイントによる説明は以上ですが、先ほど駅にお見えになった方の中には、お子様を久居の護学校へ毎日送り迎えをしている方もいらっしゃいました。そのほか、自分も70歳を過ぎて随分高齢になってきたので、この階段の上り下りが大変つらいという内容の御手紙もいただいております。

このように、切にこの鈴鹿市民が願っております近鉄伊勢若松駅のバリアフリー化ですので、なんとかお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

知 事

私も現地を見させていただいて、そして、今、市長からも分かりやすい御説明をいただきました。少しいろんな背景や国の動きも含めて説明したうえで、私の考えを申し上げたいと思います。

国においては「バリアフリー法」という法律が、高齢者や障がい者の人たちがいろんな移動を円滑にできるようにという法律ですが、これに基づく国の基本方針が平成23年に改訂しまして、3,000人以上が乗り降りする駅については、平成32年までに、ということは10年間です、10年間で全部バリアフリー化しなさいという国の方針があります。それに沿って国もお金を出すので、県も市も事業者もお金を出してみんなでやっていくということが、一応国全体の方針になっています。その方針に基づいて三重県でも23駅、今までエレベーターやスロープをつけるなどやってきたところです。

この近鉄伊勢若松駅は、乗り換えの人を合わせると1日1万人なんですが、乗ったり降ったりするのは1,700人です。本当は今の国のは3,000人以上なら国がお金を出すと言っているのですが、本当であれば1,700人だと、その補助金に該当するかどうかは微妙なところです。

しかし、地元の皆さんの大変要望が強いと、想いが強いと。地元の皆さんもそうですし、鈴鹿市さんも、あるいは事業者である近鉄の方も含めてご要望が大変多いということ。

それから、実際に改札を通るのは1,700人でも、実際に使っているのは1

万人おりますので、そういう大変鈴鹿市にとって重要な乗り換えの駅であるということ。

それから、先ほどの工事も段差解消などを中心に適切なものであるということで、県としてはこういう工事についても、エレベーターを付けるだけじゃなくて、多機能トイレがありますが、オストメイト用などを含めた多機能トイレだと思いますし、あと、待合室がホームにそれぞれありますが、待合室のドアも固かったり、なかなか動かすのに大変なので、スライド式で動かしやすいようにするとか、そういう本当に適切な工事であるということも考えまして、県の考え方としては、国が補助を付けるということを前提に、26年度の予算の財源確保が全部できていないので、まだ絶対ということは申し上げることはできませんが、国が補助をすると、年末ぐらいに結論が出ますが、国がやるということであれば、県としては県の負担分を確保する、そのために最大限努力をするということで、財源がまだ確定していませんから、絶対というのは難しいですが、国が付くという前提で、国が付いたら県もその財源の県の負担分を確保するために最大限努力するということしていきたいと思っています。

そういう意味でも、先ほど市長がおっしゃっていただいたように、近鉄さんと鈴鹿市さんと県で、国に対してちゃんと補助を付けるよう、国が3分の1、近鉄が3分の1、県と市が6分の1ずつという全体の負担割合ですが、そういうのに向けて国に三者で一緒に行くと、情報共有をすることによっていきたいと思っていますので、時期的な問題もあって、奥歯に物が挟まったような感じで申し訳ないですが、最大限努力をするということをお願いできればと思います。

鈴鹿市長

大変御理解をいただいている、御認識をいただいていることはよく存じ上げておりますし、今の御発言の中でもそのように聞かせていただきました。

先ほど車椅子がずっと階段を上がっていくのを実際に見せていただきました。ホームまで行くのに約20分かかります。車椅子を動かすフォークリフトみたいな機械があるのですが、それで車椅子の方を運びますと、約20分かかるとのことでした。それがこのエレベーターが付くことによって3分になります。17分の解消ができて、それぞれ安全性も確保されますし、乗っていただきやすい時間にもきちっと乗っていただけます。特に障がいを持たれている方たちはそういう現状があります。

また、最近、鈴鹿市も若いまちとはいえ、少しずつ高齢化が進んでおりますので、特にこの高齢の皆様方にはエレベーターを使っていただきやすい環

境に整えていかなければならないと思っております。

近鉄の沿線の中でも優先順位がいろいろありますが、知事もおっしゃっていただきましたとおり、本来は鈴鹿市の近鉄伊勢若松駅は順位があまり高くない方ですが、知事の力強い後押しもいただいて、随分今、前に進めていただいておりますので、なんとか近鉄さんもやる気になっていただいておりますので、しっかりと私どもも頑張っております。引き続き、奥歯に物が挟まっているとはいえ、本当に力強いお返事をいただいたと認識をしております。是非ともよろしく願いいたします。

知 事

この時期にしてはだいぶ力強く言ったと思いますので、財源確保がまだできてない中ですから。

ここにいらっしゃる皆さんは、ふだんから地域の活動を一所懸命やっていたり、いろんな方々とおつき合いいただいているので十分ご存知だと思いますが、こういう障がい者の方々の福祉は、みんなの目に見えるようにしていくことが大切だと思います。

自分が知事になってから一つ思い入れがあって、「おもいやり駐車場」という、鈴鹿市にもいくつかありますが、店舗の前のところ、車椅子とか障がい者の方々、あるいは、妊婦の方や高齢者の方用の駐車スペースを設けるといっておもいやり駐車場というものですが、ああいうのもああいうスペースが大事だと見えるようになっていくことで、障がいを持った方やお身体の不自由な方を大切にしなければいけないようになっていくと思うのです。

この近鉄伊勢若松駅についても、仮にこういうバリアフリーが整備されていけば、ここを使う人たちは、みんなそういう優しい気持ちになるというか、そういうことが大切だと思ってもらえる効果もあるんじゃないかと私は思っているのですが、実際にそういう障がい者の方やお身体の不自由な方が、一所懸命例えば働いている姿を見ると、こうやって働いてくれている方々もどんどん成長していくし、我々も何かうれしいと思ってもらえるように、見えるようにしていくのは大変重要なことだと思っておりますから、重要なお話をいただきましたので、来年度の予算に向けて、今申し上げたような形で、鈴鹿市さんと一緒に頑張っていきたいと思っております。

②地域公共交通について

鈴鹿市長

せっかく知事が来ていただいておりますので、要望をしっかりとさせていただこうと思っております。ここでもう一つお願いをしたいのですが、本市の地域

公共交通に関するお願いについて、少しお時間をいただきたいと思っております。

先ほど近鉄の鈴鹿線へ結節するコミュニティバスを少し紹介させていただきましたが、本市が運行しますこのコミュニティバスは、「C-BUS」という愛称で黄色の車体で親しまれております。このC-BUSは、西部地域2路線と南部地域2路線が、市内の公共交通空白地域と市街地の間を運行しております。昨年度は4路線で33万7,000人以上の方に御利用をいただいております。各路線とも運行沿線にありますJRや近鉄の駅に接続をしますことから、利便性を高め、鉄道との乗り継ぎで市外への移動を可能にしております。

過去の乗降調査から推計をいたしますと、利用者が約24%、約8万人の方々が鉄道駅のバス停を利用され、その後、鉄道利用により広域的な移動をされていると推察ができます。

C-BUSの運行に際しての課題は、運行委託費の増大でありまして、市費の投入が昨年度は8,600万円を超える状況となっております。このC-BUSには、三重県より補助金が、昨年度、860万円、本年度も昨年度より減額ながら交付をいただく予定ですが、このような持続的で安定した財源が今のC-BUSの運行には非常に有益なものとなっております、大変必要なところ です。

しかしながら、来年度からは単一の鈴鹿市だけで完結をするバス、地域内バスの維持には、市町が主体的に行うという位置づけで、三重県は地域内バスへの補助金は廃止をしたいという意向を伺っております。併せて、三重県の補助金の代わりに国の補助制度の活用をいかがですかということで伺っていますが、国の補助制度は既存路線での大幅な見直しやサービス水準の改善が必要であり、既存路線への適用は現段階では難しく、C-BUSでの導入はコストの増加につながると考えております。

このことから三重運輸支局にも相談をいたしましたところ、国の補助制度は運行の立ち上げを意識したものであり、既に運行をして定着をした地域交通の支援としてはハードルが高いのではないかと指摘もいただけてきたところ です。

本市が運行するC-BUSは、鈴鹿市内単一での運行でもございますが、先ほども申し上げましたように、C-BUSの利用者が鉄道に乗り継ぐことで、大変広域的な移動を可能にしております。C-BUS沿線にあります6つの高校への通学利用をはじめ、通勤、買い物など日常生活を営むうえで、県民・市民が市内外を相互に移動する広域的な移動手段となっておりますので、市バスを地域内バスということではなく、複数の自治体を結ぶ地域間バスとして位置づけていただき、C-BUSに県としての継続的なご支援を是

非ともお願いしたいということで、残すところの時間をこのように発言をさせていただきました。

大変厳しい問題でございまして、いろいろあろうかと存じ上げておりますが、よろしくお願い申し上げます。

知 事

先ほど市長から地域内のバスのお話がありました。これは平成23年から地域内、鈴鹿市の中だけで完結するバスも国は補助金を出しますという制度がつくられました。なので、県は複数の市と町をまたぐバスを支援する、地域内で完結するのは市町で単独で国の制度を活用してお願いしたいということ、23年から24年と2年間、議論をさせていただいて、今年度は経過措置として出させてさせていただいて、来年度、県が地域内のバスへの補助金を出すのはやめることをこれまでやってきました。

でも、国の補助金を使いにくいということだったので、最初の23年の当時は、国に我々からも提言をして、今までは新しく路線をつくらないといけな。さっき西と南で4つあると言われていましたが、また5路線目や6路線目をつくらないと国の補助金はもらえないというのですが、今年の5月から新しい路線でなくてもいいと、今のままでもいいが、ちょっとダイヤを変えるとか、地域ぐるみの交通会議みたいなのをやってもらって、地域内のみんなで考える体制をつくるといういくつかの条件があれば、今の路線でも補助を出すことができるというのが、一応国の見解になってきています。

ですので、ここはさっきの近鉄伊勢若松駅のバリアフリー化のように力強く言えなくて申し訳ないですが、県は複数市町をまたぐ、市は市の中で完結する路線、そして、国の制度が緩和されたので、私どもは4路線とも鈴鹿市のC-BUSは一定の改善をすれば取得可能だと考えていますし、既に10近くの市や町で来年の補助の採択に向けて、それぞれの地域内バスについて国の補助申請をする準備をしていただいております。

そういう意味ではここは力強くなくて申し訳ないですが、国の補助採択に向けて我々も一所懸命一緒に努力をさせていただきますが、県としての地域内で完結する補助を継続するのは少し難しいと考えています。

鈴鹿市長

要望の際にもいろいろお伺いをさせていただいて、県の担当者の方ともいろんな議論もさせていただいている中で、前よりは国の補助金の条件緩和ができたということで、その辺を含めて研究をしているところですが、それを研究しながらも、併せてこういった継続的な御支援があれば、なお一層、充

実が図れるのではないかということもあって、この場で申し上げさせていただきました。

いろいろ検討していかなければならないと私どもも思っておりますので、その部分で御助言をいただくことも十分お願いをしていきたいと思ひますし、また、併せて、もう少し使いやすい、今でも使いやすいとなったといへば、鈴鹿市のように完成度が高くなっておりますと、ダイヤを変へるとか通学の時間を変更することは、今の段階では難しい場合もありますので、その辺を含めて御相談に乗っていただければと思ひしておりますので、今後もよろしくお願ひを申し上げます。

(3) 閉会あいさつ

知事

最後、難しいですということだったので、何か“おいっ”という感じの空気がなくもないですが、一方で、1点目は、この時期にしてはだいぶ力強くやらせていただいたのもありますが。

いずれにしても、こういう少子高齢化と言われて久しい時代ですが、バリアフリーというのは、障がいをお持ちの方だけじゃなくて、市長も触れていただいたように、高齢者の方々がこれから、もっともっとさらに元気に活躍してもらうためにも、そういうインフラの整備は必要だと思ひていますので、先ほどの1点目の部分について、今申し上げたように三者で近鉄さんと鈴鹿市さんと県と協力をして前に進めていきたいと思ひます。

それから、余談ですが、明日、私、山形県にPRにたった半日だけですが、行きます。

実は、今年6月に山形県知事がこちらに来られて、「佐藤錦」のPRをしてくれましたので、私が今度、山形県に南紀みかんと伊勢うどんと鈴鹿のお茶をPRに行つてまいりますので、かぶせ茶ではなく深蒸し煎茶の方ですが、PRをしてきたいと思ひていますので、そういう形で県としてもできることとできないこととありますが、皆さんが元気になってもらえるように、これからは我々も頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。